

本研究課題は「小・中学生向け『地域語教材』開発のための基礎的研究」であり、平成24年度は、児童・生徒が母語(母方言)を客観的に見つめ直す機会を提供する教材の作成という目的意識を持って調査を行なった。本稿是那覇市での調査結果について報告する。

(1)調査の概要について

黒崎良昭、橘幸男の2名が12月21日から24日までの4日間、沖縄本島の各地で調査(聞き取り調査、写真撮影、民俗・歴史体験、その他)を行なった。なお、都染は別途研究費で石垣市・竹富町の調査を行なった。

(2)調査の内容について

- 沖縄における方言教育・国語教育について、教育関係者への聞き取り調査
- 沖縄における、過去の方言矯正教育の調査。沖縄県立博物館では「方言札」の実物に接する機会を得た。
- 沖縄方言の特徴について、小学生・中学生にも理解できるような視覚資料などを得るための写真撮影調査。
- 沖縄の人々の言語活動を取り巻く、自然・環境・生活様式・歴史・民俗に関する実地調査。

(3)沖縄の小学校・中学校における方言啓発・普及のための指導について

1) 沖縄県の取り組み

沖縄県においては、マスコミ等においてウチナーグチについての啓発が行われているが、日常生活の場からは沖縄固有の言葉(ウチナーグチ)が消えつつあり、伝統文化の振興の上からも大きな課題になっている。沖縄県は「しまくとぅば力向上」を基本プロジェクトの一つとして積極的な取り組みを進めようとしている。

2) 那覇市の取り組み

那覇市では、2012年(平成24年)4月から「ハイサイ運動」を推進している。これは、沖縄らしい社会の構築ということを施策の機軸として、県民性や風土に根ざした地域づくりを行うことを目指している。

3) 方言使用を推進する運動

那覇市の推進する「ハイサイ運動」は、ウチナーグチの日常生活における使用の普及拡大を目的として、行政が率先して取り組もうとする事業で、その内容は、①ウチナーグチによる挨拶の推奨、②関連する事業の推進、③伝統文化の普及啓発、である。

4) 那覇市教育委員会の取り組み

①「琉球王朝祭り 首里『方言お話大会』」の後援、②教育委員会主催の研修会における「ハイサイ運動」の推進、③児童生徒用資料の作成、に取り組んでいる。児童生徒用冊子の制作に関しては、「すぐに使えるウチナーグチ」を目指して全児童・生徒に配付する資料を作成中で、「ハイサイ運動」を推進しようとしている。

5) 小学校・中学校における指導

小学校では、教科指導等を通じて、沖縄に伝承している話を家族から聞いたり図書館で調べたり、ことわざや沖縄方言を調べることも推進したり、沖縄の童謡の学習、組踊りの学習等を取り入れている。総合的な学習の時間にも、方言調べ等を行なっている。学芸会等においても、沖縄の物語に取り組み、方言学習を行なおうとしている。

さらに、小学校のクラブ活動では、それぞれの学校ごとに、方言クラブ、琉球舞踊クラブ、三線クラブ、しまくとうばを楽しむ会、昔遊びの会などを設けている。

中学校の国語科の指導の中においても、各地の方言を調べること、文章を沖縄方言に直すこと、琉歌に親しませること、などの指導を推進しようとしている。

6) 児童生徒用冊子の制作

「しまくとうば」を那覇市の下級士族(平民)の言葉(日常生活の言葉)と位置づけた方言入門書の編集を続けている。この冊子は、小学生・中学生の日常生活で使えるものとし、家庭での活用にも期待し、「教本」ではなく「読本」と位置づけ、拘束性を弱めている。内容は「しまくとうば」に興味・関心を持てるように、学校、季節、行事など日常生活で使う言葉を、イラストをまじえ親しみを持たせる工夫がされている。

- ◆この項目については、那覇市教育委員会の学校教育部副部長・宮内勇人氏、同学校教育課副参事・渡辺英二氏、同学校教育課指導主事・徳門敦子氏からの教示を得た。

(4) 今後の共同研究の方向性について

「小・中学生向け『地域語教材』開発のための基礎的研究」という課題のもとで、児童生徒が母語(母方言)を客観的に見つめ直す機会を提供する教材の作成という目的に照らし合わせるとき、上記の那覇市の取り組みは大いなる参考材料になる。

小学生・中学生に対する指導を考えると、言葉を研究の対象物のように見ないで、生活の中で生きて動いているものという視点を忘れず、効果的な教材を作成する努力を続けたいと考える。